

平成 28 年度「読売国際協力賞」贈賞式  
(受賞者：公益財団法人ジョイセフ)  
藺浦副大臣 祝辞

平成 28 年 11 月 18 日

本日ここに、「読売国際協力賞」贈賞式が盛会に開催されますことをお喜び申し上げます。

また、読売国際協力賞を受賞されたジョイセフの皆様に対しお祝い申し上げますとともに、開発途上国の女性の命と健康を守るための長年に亘るご貢献に敬意を表します。

私自身、政治家になる前に読売新聞記者をしていた経緯もあり、本日ご挨拶させて頂くことを大変嬉しく感じています。

ジョイセフは、アジアやアフリカ等で、家族計画や母子保健の普及に尽力してこられました。戦後日本の復興過程で健康改善に力を注いだ経験を活かし、そのノウハウを途上国に共有されたことは、国内外で高く評価されています。ジョイセフの皆様には、世界中の女性が自らの意思で人生を選択・決定していけるよう、今後も崇高な活動を続けて頂きたく、お願い申し上げます。

外務省はジョイセフと資金協力を通じた連携をしており、本年は、ベトナムでは女性健康センター建設や妊産婦ケア、ネパールでは地震被害地での巡回診療や衛生用品・医療品配布、ザンビアでは農村の妊産婦や新生児の死亡率低下のための保健センター建設等について協力させていただきました。

また、ジョイセフは、長年、「人口・エイズに関する地球規模問題イニシアティブ (Global Issues Initiative: 通称 G I I)」の「外務省／NGO 懇談会」の NGO 事務局を務め、129 回の懇談会が実施されています。2014 年からは同懇談会のユニバーサル・ヘルス・カバレッジ (UHC) ワーキング・グループのとりまとめ役として日本の国際保健政策の柱である UHC を推進し、諸外国にも広く広報・宣伝されました。私も、9 月にモントリオールで開かれた世界エイズ・結核・マラリア対策基金 (グローバルファンド) 第 5 次増資会合に出席し、UHC 促進の重要性を訴えてまいりました。

外務省としては、幅広い国民参加による国際協力の実現及び ODA の効果的・効率的な実施に向け、志を同じくするジョイセフを始めとする NGO の皆様との連携を引き続き強化していきたいと考えています。

最後に、国際協力の現場に光をあて、国民の皆様のご理解を深めていただいている読売新聞社に御礼申し上げますとともに、ジョイセフの今後の更なる御活躍と本日お集まりの皆様方のご健勝を祈念し、お祝いの言葉といたします。

(了)